(大正十二年十一月八日第三種郵便物認可)

四月廿一日夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢一ケ月拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

日本外科學會見聞記【二】

T・M生

本日の結びは東京醫專の佐藤教授の氣管撮影法でリピヨードルと云ふ造影物を氣管へつぎ入れると肺臓のレンドゲン寫眞が明瞭に撮つて種々な病氣が診斷される。微細な氣管枝迄全部よく寫眞に撮つて居た。第二日目は胃腸の外科が上演された。午前中八題、午后十題東北の關口外科から十二指腸憇室と云ふ、十二指腸に膿の枝が生えた樣な珍症例が發表される。熊本醫大からは胃及び十二指腸の廣置的切除法の經驗發表がある。危險率が少いから此の方法で胃潰瘍は手術すべしとの說であつた。九州から曾つて三宅教授の手術された胃癌患者で、手術後二ヶ一年七ヶ月生存してたが後に偶々育腸炎で死亡したものの解剖例の報告がある。胃癌も手術によつて全治することの最適例である、胃癌は手術しても駄目だ等とやゝもすると醫者でさへ諦めてる人があるが、その謬見を撤回すべし。要するに早期に見付さへすれば胃癌は助かるものである事を知らねばならぬ。

鹽田外科から直腸癌の手術成績に就いて、鹽田博士の感想が陳べられる。全樣醫者も患者もグズグズして早く手術を決心しないから不可んと嘆かれた。當日の宿題報告は二題、九州赤岩外科の膽道撮影法は、テトラアミンの注射又は內服に依り、鮮明な膽囊のX線寫眞を撮影して膽石病の診斷に役立てて居る。又京都の藤浪博士の胃腸撮影法、胃腸十二指腸、小腸、虫樣突起、結腸、直腸の撮影法に及ぶ廣汎な御研究であつた。

特別講演として名古屋醫大桐原眞一教授の胃鏡檢査法、胃の中迄二人程の管を挿入して鏡で胃の中を覗いたり、胃の內部の寫眞を撮つたりする。讃歎すべき研究云とふ他ない。次に全じく名大河石博士の生体レ線活動寫眞供覽、昔はレントグンは寫眞を撮すか透視で見るかしか能力がなかつたが現今では、之を活動寫眞にして見て居る、骸骨の動いてる工合や胃腸の食物を運ぶ狀態、血液の流れ具合小便の腎臓から出て來る處など手に取る樣によく見える。

◎月日の献立◎

【朝】味噌汁ー豆腐
小付　やきのり
【晝】親子御飯（煎い玉子鶏肉そぼろ）
【晩】さつま汁ー燒切　鰆

日曜

父のかげ　飯村閑舟

君の手の
銀絲に觸れる
まめまめしき
働らきよ

×

かくす涙
一つ一つに
落ちて光るよ
銀の糸

×

父のかげ
瞼にうつし
銀絲に走る
そが胸に

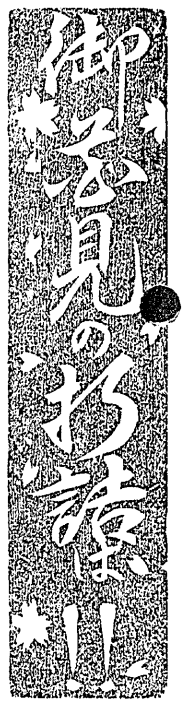
×

せつなきは
今宵も流れる
父によく似た
鼻唄よ

▽是非！
御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます
三井質店
平・四電六〇六番

春の……
レンコート
春のオーバ
春のセビロ
ゼヒ御用命を！
平町四
正札堂洋服店
電話四三番

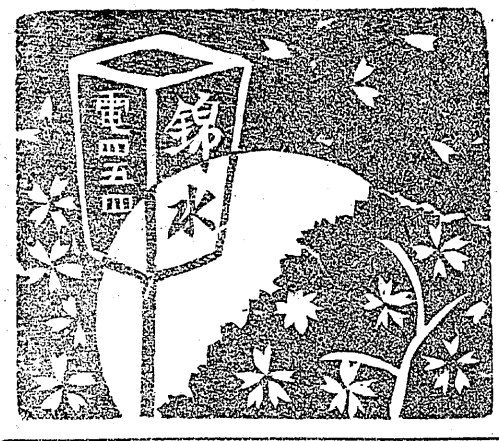
內科　小兒科　花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町　電話五〇七番



花見折詰の準備が出來ました、何卒御用命の程御待ちして居ります
すし折詰　二十錢より
魚折詰　二十錢より
今年は特に目新しい材料を豊富に仕入れましたから精々勉强致します
●おいしい水豆初めました
平三警察署通り
魚清食堂
電話六三三

踊り付レコード
花見に
花見おどり
櫻行進曲
うかれ櫻
踊りの講習致します
お花見に
平町五丁目
金光堂時計店
電話一九五番

お花見の……
折詰
辨當
是非御用命下さい



けふから着手の
鎌田山貫通工事
橋も新規のモダンとなる
竣工次第國道全体を舗装

市制施行を前に平町が待望する國道六号線中の平町より神谷村に通ずる改修工事は既報の如く内務省野瀬技師が來平して打合せの結果愈々準備なり本廿一日を以つて總工費十五萬圓をもつて工事に着工、本年中に完成する筈であるが本工事は從來の平、神谷間迂曲せる國道を鎌田山を開鑿して直線道路となし鎌田橋も新規のモダン橋となるもので亦平町としては本工事終了後、實現可能を傳へられる六号線（久の濱―勿來間）全體に亘る鋪裝工事に備へる爲今回の工事に對しても相當の便宜を圖ることになり建設事務所を適當の地に建て、貸與することになつた

事情に立ち至つたが四家同紹介所長は之等難局打開を圖り、本廿一日關西方面に向けて出發、靜岡、愛知、滋賀、大阪、和歌山、奈良の各府縣を歴訪各地の紡績並に製糸工場に新求人先を開拓することになつた、尚求人開拓のため縣費の補助を仰ぐと

六ケ年繼續して
平驛無事故
廿四日又も表彰

去る昭和八、十の二ケ年引續いて東鐵局長より無事故驛の表彰を受けた平驛は今回更に第三回目の二ケ年無事故驛として表彰され來る廿四日午前九時から驛樓上に東鐵局長代理福井運轉課長、中澤水戸運輸所長等臨席の上銀盃を授與されると

昭和人絹
解雇者の斡旋
四家所長が關西へ

（既報）錦村昭和人絹會社燒失に依る解雇男工四百二十四名の就職に就いては平町職業紹介所で各方面に依頼極力斡旋に努めて來たが縣内各工場は何れも昭和人絹會社復興策と共に間もなく退社されることを虞れて雇入を拒絶して居り縣内では殆と一ケ月にならんとする今は一名の就職者もなく爲に此のまゝ現在の狀況を繼續すれば紹介所機能に對して誤解される虞れあるため結局縣下各紡績又は製糸工場で採用なき以上縣外に捌口を見出すことより外なき

肥料輸送
貨車沸底
臨時に增發

常磐線下り貨物列車は最近肥料輸送の爲め車輛の不足を告げて居るので明廿二日から五月三十一日迄平四倉間に臨時貨物車二本を增發する

平戸籍會
勤續者表彰

平戸籍會春季總會は明廿二日より二日間に亘つて午前十時より平第三小學校講堂で開催、勤續功勞者表彰其他があり午後一時より松ケ岡公園で觀櫻會を催すと、

水豫組合協議

平町外二ケ村聯合水害豫防組合は本廿一日午前九時から組合會を平町會議室に開き、組合所有土地内郷地内五百五畝歩賣却の件を附議した

種牡馬に
奬勵會交附

この程十年度種牡馬飼育奬勵金として農相から郡下二十九頭に對し一頭當り百八圓づゝ左記の如き飼育者に交付された

田人油府末吉　上遠野伊藤精入貝泊蛭田千代之助　入遠野鯨岡正江　磐崎北郷三郎　田人綠川鈴之介　入遠野吉田林之助　同佐藤鬼子代　荷路夫野崎辰藏　上遠野山野進　入遠野野桶口由大郎　渡邊高木武子　田人小牧敏元　渡邊若松龜吉　三阪永山久助　同今田政治　同大竹義隆　秋山榮　佐藤務　永戸合津功箕輪片寄秀次　三阪大竹茂　内郷加藤丈夫　上小川草野實伊　川前矢内半藏　松本仁四郎　松本繁與

滿洲視察團
郡内炭礦を歴訪

滿洲炭業視察團の實業部鑛務司長陳悟、滿洲炭礦常務理事竹内德三郎、撫順炭礦常務理事弟子丸相造氏等一行十名は昨廿日午前九時來郡、常磐炭礦視察のため地元鑛業側幹部等の案内で好間、磐城の各坑視察後淺野會館で好間下野所長より常磐炭礦の現況を聞き中食後第二磐城、入山平發電所を歴訪、同日は平町に一泊、本廿一日朝平驛發で歸國の途に着いた

商友會の
總集會開催

平商友會の本年度定時總集會は來る廿九日午後一時より母校講堂に開催、左記案件を協議し午后六時より恒例懇親會を催すと昭和十年度決算承認の件、昭和十一年度豫算編成の件、會則改正の件、母校新築移轉促進運動及寄附金に關する件

磐女關西へ
明日出發する

磐城高等女學校四年生の關西方面修學旅行はいよ／＼明廿二日出發するが日程左の如くである

△四月廿二日　午前七時卅二分平驛發　午后零時廿分上野驛着　遊覽バスにて宮城遙拜　明治神宮　靖國神社　日比谷泉岳寺　東京港　淺草　上野等市内見學　午后十時卅分東京驛發　車中一泊

△四月廿三日　午前九時五分山田驛着　内宮　外宮參拜　徵古館見學　午后四時　二見浦　二見館一泊

△四月廿四日　午前七時九分　二見驛發　同十時四十分奈良着　春日神社二月堂　三月堂　大佛殿正倉院見學　午后二時四十三分　奈良驛發　同三時四十二分　桃山驛着下車伏見　桃山御陵乃木神社參拜　電車で京都へ同驛京都市辯慶樓一泊

△四月廿五日　遊覽バスで御所　二條離宮遙拜　平安神宮　豐國神社　三十三間堂　智恩院　金閣寺銀閣寺　インクライン嵐山等見學　同旅館一泊

△四月廿六日　午前六時三十三分京都發　午後五時三十二分　熱海驛着　熱海町大伊豆一泊

△四月廿七日　午前七時九分　熱海驛發同八時十四分　藤澤驛着　下車　電車で江島　鎌倉へ向ひ長谷下車　長谷觀音　大音　建長寺　八幡宮　鎌倉宮見學　午前十一時五十三分　鎌倉驛前　午後零時四十八分　東京驛着省線で御徒町驛下車　上野松坂屋見學　午後二時五十分　上野驛發　同七時三十五分　平驛着解散

植田區長會
植田町區長會議はこの種同町役場樓上に開き戸數割賦課ほか數件を協議した

町村技術員會
石城郡内町村技術員會議は廿四日午前九時から平町團體事務所に開き二毛作品評會その他を協議する

小名濱の野球
小名濱體育聯盟主催本年度第一回同町野球紅白試合は廿九日小學校球場で行ひ尚五月一日同町日本食糧會社で主將會議を開き續いて三日本試合を行ふ

植田理髮表彰
植田町理髮業組合總會はこの程植田署會議室で開き協議後十八ケ年間組合長として盡瘁した相良千之助氏に火鉢一對を贈呈、尚優良店員伊藤信衛（三）佐藤安吉（三）根本源七（二）鈴木一（二）の四君を表彰した

磐崎局長逝去
磐崎村郵便局長であり尚村會議員野村左内氏は十七日病魔の侵すところとなり死去、享年五十四才

平　閣　人　事

回　出　生

△沙太郎町四〇　佐藤忠助氏長女トシ子さん

△鎌田町五二　當時東白河郡竹貫村大字竹貫字竹貫三四高橋寅治氏二男平治さん

回　婚　姻

△東京市小石川區大塚上町七上原喜代次氏（三〇）四丁目五三遠藤フミさん（二四）

△内郷村大字宮字宮澤二六大友健男氏（三六）　鍛治町三〇根本義さん（三〇）

△鎌田町五八　井上ウメさん

花の山に景物

夜櫻に風情を添える……

大仕掛の花火

▽……渡邊火藥店が寄附

平町壹町目火藥商店渡邊寛一氏は夜櫻に興を添える爲め『ナイヤガラ瀑布』『菊花園』と題せる二本の仕掛花火を來る廿五日夜八時と八時半の二回に亘つて松ケ岡公園裏山に打ち揚げ夜櫻の絢爛を一層美化する由

花見の團体

二千名を突破する

鐵道募集で二十六日に

既報東鐵管内汽車賃二割引の勉强振りで募集中の平町松ケ岡公園觀櫻團体は天候に祟られ廿六日に延期となり一時平地方の商人を悲觀させたが東鐵初め常磐線各驛の宣傳が物を云つて平行團体申込は二十一日現在で千三百名に達し猶盛んに申込みかあり二十六日迄には二千名を突破する模樣なので鐵道では俄かに廿六日臨時列車を增發する事に決定したと

急ぎ出した春

一飛は初夏の氣候

最高温が廿二度

春も漸くスピードを增した昨日今日の暖さは又格別で最高温度もなんと二十二度で例年五月下旬の暖さまさに春を飛び超へて初夏の訪れを思はしめ面喰はせた小名濱測候所では驚きながらもあと二日位はこのあたゝさが續くからと語つて居た

綴驛竣工

祝賀會開催

既報工費九千餘圓で此程竣工した綴驛舍の改築落成式は地元内郷村が主催磐城、入山、好間三炭礦が協賛して來る廿七日午後二時淺野記念館で盛大に催される

平第一校

春の遠足

平第一小學校は來る廿四日午前九時出發で左記方面に

江名濱海岸に

溺死體漂着

男女別が不明

物凄さに漁夫が仰天

本廿一日午前六時半頃江名濱町大字江名地内海岸に男女別不明の溺死体漂着し居るを附近の漁夫が發見届け出たので平署から中島警部補が檢視に向つた

ヒス女房

鮫川投身

植田町字本町料理業柳内忠吾さん妻ひささん（四三）持病のヒステリーが嵩じて去る十八日夜無斷家出捜査中の處廿日午前十一時頃錦村大倉地内鮫川に投身溺死体となつて漂着したのを發見された

植田の忠魂祭

植田町忠魂祭祝典は卅日午前十時から同町八幡神社境内で擧行

片倉女工表彰

平町磐城片倉工場從業員より左記七名は模範男女工として來る二十六日郡山蠶業支所に於いて縣から表彰されると

松本サダ　高橋ムメ　矢吹ウメノ　佐藤ケサノ

來月三日開催

磐城高等女學校櫻丘會主催の關屋敏子女史獨唱會は既報の如く來月三日午后一時半より新築の同校講堂で催されるがプログラム左の如く關屋女史自作の十八番「お夏狂亂」等必らず聽衆を心醉んしめて止まぬものがあり加ふるに宮崎富子孃の伴奏により新講堂の機能を充分發揮し得べく一般の期待は非常なものである、因に會員券は八十錢で目下櫻丘會員により發賣中である

△第一部　バイジエル作

「お夏狂亂」に見る

關屋女史の熱演

櫻丘會主催の音樂會を

一般は非常に期待

ジプシーの女は誰に　リウランス作印度の子守唄　グリーク作ソルベーヂ　ヘオジクト作カビネラ

△第二部　關屋敏子作日本歌劇お夏狂亂

△第三部　小松耕輔作ばせう　關屋敏子作餌差唄　關屋敏子作うらの背戸屋　山田耕作作からたちの花

△第四部　ベルヂ作伊太利歌劇リゴレット美しの御名

平驛衛生講演

平驛は來る廿四日午後一時より樓上に衛生講演會を開くが講師は鎌倉慶風院長醫學博士中村善雄氏で結核豫防に就いての講演があると

小名弓道大會

小名濱町弓道會は同弓道場改築資金造成しため木村友衛氏を招いて浪曲大會を近く同町磐城座で開く

第三遠足延期

既報平第三小學校の春期遠足は廿三日行ふ筈であつたが廿二日全校生徒の種痘を行ふので廿五日に延期された

鷄舍から失火

廿日午後雰時五分頃植田町佐藤丑之助方雞舍から發火同小屋一棟を全燒して鎮火したが損害約三百圓原因は人工雛器のランプ灯不始末からと判明

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△助手　十八才前後　月給五圓

△配達兼農夫　廿才前後　月給五圓

回　職を求める方

△土工夫　廿三才　高卒

△採炭夫　卅八才　高卒

△女工　廿三才　尋卒

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間　お話「摘み草」京道信次郎

▼後六、二五　生活改善講座「東北農村に適する生活改善の實際に就て」横内りよ

▼後七、三〇　講演と實驗「音の不思議」渡邊俊平他　理化學研究所大河内研究向つて春季郊外遠足を行ふ（一年）飯野村三島八幡神社（二年）夏井村專稱寺（三年）平窪村大國魂神社（四年）鹿島神社（五年）豊間村沼内辨財天（六年）豊間村鹽屋崎燈臺（高一、二）大野村玉山鑛泉

室中繼

▼後八、〇〇　俚謡　福島縣相馬郡鹿島在鎌田春藏他

▼後八、二五　地唄　米川文子他

▼後八、四五　管絃樂とピアノ獨奏　アレキサンドル　チエレプニン、新響

▼後九、三〇　時報　ニユース　明日の話題　番組豫告

明日の部

▼前六、三〇　英語講座　田忠藏

▼前七、〇一　朝の修養「基督に倣ひて」岩下壯一

▼前九、〇〇　家庭メモ

▼前一〇、三〇　家庭講座　榮養と調理

▼後〇、〇五　盲僧琵琶「十二樂妙音曲」谷口高榮

▼後二、〇〇　婦人の時間「農村婦人の働きぶり」丸岡季子

▼後二、四〇　小學高等科の時間「工場の話」鈴木宗正

▼後三、一〇　教師の時間「高一國史教科書改訂の趣旨」藤岡繼平

▼後六、〇〇　子供の時間　獨唱と合唱　JOAK唱歌隊

▼後六、二五　基礎英語講座　鹽谷榮

▼後七、三〇　講演「文明と病氣」松本信一

▼後八、〇〇　花めぐり第十日「兼六公園の夜櫻」金澤市兼六公園より中繼

▼後八、二〇　ピアノ獨奏（第三回）クロイツアー　桃谷中繼

▼後八、五〇　小唄　春日とよ金

▼後九、〇〇　映畫劇「ハロー東京」PCL運

明日の天氣

仙台放送局　氣豫報

今晩も明日も南の風晴時々曇り

廿二日

瀕死の解剖 建設の力

（榮上映上演時間）

悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（畫）

一〇一　目明しの一行

こゝは矢切の渡し小屋、八百松にお花がこゝに休息してゐると雨も小降りになり雷も遠く去り船を出さうと清六が簑を取つた時にバタ／＼といふ足音、それが小屋の前にとまると

○『清六船を出してくれ、急の御用だ』

といつたが、御用と聞いて松とお花はぎよつとした清六はその簑を壁にかけておいたお花の長襦伴の上にかけてそれをかくし

清『ハイ誰だの』

○『俺だ』松戸の仁兵衛だよ』

清『仁兵衛親分でございますか、只今開けますイヤどうもえらい降りでございましたな』

といひながら早くかくれろと目にて信号した、お花は正面の戸棚のうちへそつと忍び込む、松は床下に這ひ込んだ。その時清六がガタ／＼／＼／＼と戸を開き

清『さアお入んなさいまし』

仁『まだ雨は止まねいぜ、一旦小降りになつたがまだ強く降つて來た、これは今夜中泣き通すだらう』

御用と書いた提燈を持つた若い者と共にこの小屋の内に入つた織色の半合羽に菅の笠、千種木綿の半股引甲掛けに草鞋ばき銀のお召こじりの道中差それに朱房の十手、誰の目にも御用聞き目明しに見える床下にゐた八百松はそれに目をつけたが仁兵衛と名乘るこの人は年頃卅四五、色の淺黑い眼に凄みのあるにらみのきいた風采、供をしてゐた二人は子分、八百松は自分達のかくれてゐるのをかぎ出されては面倒と隅の方に身をひそめた、仁兵衛は煙草を服みながら船頭の清六に向ひ

仁『大層今夜はおそくまで起きてゐるな』

清『ハイ何ういふものか睡られねえ』

仁『客があつたな』

清『イヤ客なぞは來ませんよ』

仁『こゝに茶飲み茶碗が二つ出てゐるぜ』

清『ウーム、それかね夕方勘八に甚太が來ましてイヤもうつまらねえ話をして茶を飲んで出て行きましたが時に親分これから何處に行かつしやる』

仁『千住まで出かけるんだところでなお前に聞くことがある、侍がこの渡しを渡つたことがあるか』

清『それはございますよ、毎日一人位は渡るだ』

仁『七つ頃迄こゝを越えたものがあるか二人連れだがな』

清『何でそんなことを聞かつしやるだ』

仁『何で聞くといつて、俺はお上の御用を聞いてゐるもんだ、して見れば侍であらうと百性であらうと怪しい奴は縛り上げる』

清『それはもつともなことだが、たゞこの渡しを越えたとばかりでは判らねえその侍は幾歳位で上へ行つたか下へ行つたか、それを聞いた上でなくば返答が出來ねえ』

といつた時に仁兵衛の子分の銀八が

銀『オイ清六理屈をいふなその侍はな一人はお旗本の殿様だ、その連れも殿様だがこれは旗本の次男坊だ、殿様の方は年頃卅四五は色の白い好い男だ、もう一人は廿四五にもなるか、是も野暮な侍ではねえ、何んでもこの近所に二人が巣をかけてゐると聞いてたづねたが判らねえ、段々しらべると江戸に行つたとのことだがこの渡しは越さなかつたか』

それを聞いて清六が

清『ウームあれだ〳〵』

仁『エッ、こゝを越したかえ』

仁兵衛は膝を進めた、清六はニヤリと笑ひ

清『さうさのう、四時頃かなイヤさうでねえ、四時すぎだ、鐘を打ち切つて少したつと急ぎ足に下の方から侍が二人來ての直ぐに船を出せとかういはしつた』

仁『ウムさうか、それで船を出したか』

と言葉せはしく問うた。

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

看護婦急派
求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七

一の井田町へ進出以來未だ日淺い今日絶大なる御支援を賜り有難く御禮申上ます、扨て離新館增築中の處愈々落成致しました、是非御散策のお歸りには！
一の井　別館落成
靜かなお座敷
氣輕な食堂
平町田町五
一の井
電一六七

吸入用酸素
純度99%
モノサシ
マス
ハカリ
度量衡
體温計
寒暖計
計量器
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
閂内旅局
電話四〇番
◈寫眞材料一式販賣致シマス

干やなぎ
美味鰹鹽から
當店特製
鰹節
魚岡屋
榮盛賀志
平町四丁目（電話二一三番）